

## ブロック別指導医講習会の実施報告

今回は、「北海道ブロック」と「東北ブロック」で実施されました「社会医学系専門医指導医講習会」についてご報告します。

令和7年8月22日、北海道ブロック保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医指導医講習会（北海道ブロック）」が開催されました。

司会：高垣 正計 所長（北海道稚内保健所）

記録：大原 幸 所長（北海道倶知安保健所兼岩内保健所）



次のACEを育てるためのフィードバック

### 講師

【北海道 倶知安保健所  
(兼)岩内保健所】

保健所長

大原 幸 先生



令和7年度の保健所連携推進会議及び指導医講習会はハイブリッド形式で、参加者数は保健所連携推進会議23名、指導医講習会19名（現地参加13名、オンライン参加6名）でした。

今回の指導医講習会は、「社会医学系専門医制度について」の説明に加え、「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」の顧問で香川県中讃保健所長の横山勝教先生が作成された、「フィードバック技法を学ぶ」のスライドを活用させて頂き、専攻医等への評価の際に必要なフィードバック技法をテーマに講義を行いました。

社会医学系専門医協会が整備する専門研修プログラム整備基準では、専門研修の評価において年次終了時・研修要素終了時・日常的にフィードバックを行う旨の記載があり、フィードバック法の学習については指導医マニュアルによる学習や、指導医研修で行うこととなっています。指導医マニュアルでは「形成的評価に基づくフィードバック」を行うこと、フィードバックの際には「知識や技能に関する事項のみならず、多職種評価の結果なども参考として、倫理性や社会性に関しても指導を行う」との記載があります。

新しいフィードバックでは、従来の「一方通行」ではなく、次世代のエース（ACE）を育てるためのA (appreciation)、C (Coaching)、E (Evaluation) を意識して、双方向の対話を通じたフィードバックが求められます。今回の資料を参考に、ACEなど必要な項目を意識しながら双方向の対話に基づくフィードバックを行い、専攻医の指導のみならず日常的な業務においても活用頂ければ幸いです。

令和7年9月5日、東北ブロック保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会（東北ブロック）」が開催されました。  
座長：福島県県北保健福祉事務所（県北保健所）小谷 尚克 所長  
記録：福島県いわき市保健所 新家 利一 所長

#### 講師

【いわき市保健所】  
保健所長

新家 利一 先生



#### 講師

【福島県保健福祉部  
健康づくり推進課】  
科長

佐藤 陽香 先生



今年は講師として、福島県の若手行政医師として活躍されている佐藤陽香先生を講師にお迎えして、専攻医プログラムを修了し、社会医学系専門医を取得された立場からお話いただきました。

#### 【社会医学系専門医研修とフィードバック技法について】

最初に新家の方から社会医学系専門医・指導医について総論的なお話をさせていただき、①社会医学系専門医制度の理念や使命、②専門医のコア・コンピテンシーや指導医の役割などについて参加者と一緒に確認しました。

もう一つ、香川県中讃保健所の横山先生がおつくりになられた資料「フィードバック技法を学ぶ」を活用させていただいて、フィードバックの技法について少しだけお話しさせていただきました。本来はこの技法についてじっくりお話しできれば良いのですが、私はそこまでの力量はとてもち合わせていません。そこで今回は佐藤先生の実際に研修で経験したお話と合わせて参加者された皆様方に次世代ACE育成のためにフィードバック技法も参考にいただきながら、育成方法について考えていただく機会になればと思いました。

#### 【公衆衛生医師育成における社会医学系専門医プログラムの果たす役割】

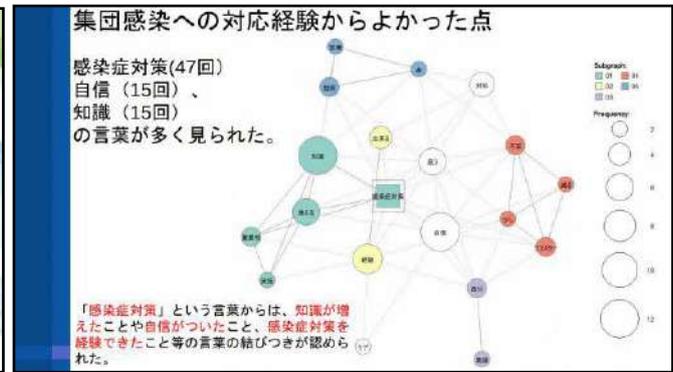
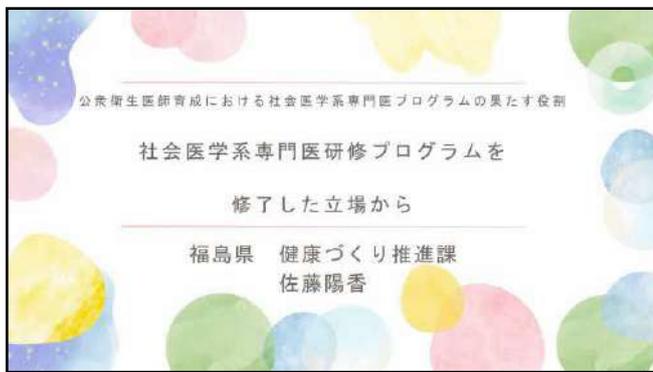
社会医学系専門医研修プログラムを修了した立場から、佐藤陽香先生にお話いただきました。

佐藤先生は現在、福島県保健福祉部健康づくり推進課科長としてご活躍中です。臨床研修後、病理医をされていますが、学生時代に保健所業務に興味を持ったことや出産と保健所長の誘いがきっかけとなり、保健所に入職されたとのことでした。

佐藤先生のお話の主なところをご紹介します。

研修については、福島県県北保健福祉事務所を研修基幹施設とし、福島県立医科大学の博士課程コースに入学し、週1回程度疫学講座において研究活動を行うものとなっていました。

県北保健福祉事務所では健康増進課でたばこ対策、がん対策、難病関連の業務を経験し、感染症予防チームで結核の集団感染対応や避難所での感染症対策、COVID-19対策を、また保健福祉課では精神保健の対応や保育所の監査などを経験されました。



特に感染症については、精神科病院での結核の集団感染への対応やCOVID-19の集団感染への対応を通じて、現地調査、積極的疫学調査、患者対応に関する様々な連絡調整など幅広い経験を積まれて、それをまとめて結核の地区別講習会や日本公衆衛生学会等で発表されています。

また、研修開始と同時に大学院の博士課程にも在籍しており、福島県の住民を対象に、2008年から2017年までの多量飲酒者の割合の推移と、震災後の飲酒の状況の変化と高血圧発症との関連について検討し雑誌にfirst authorとして発表されています(Sato Haruka, et al. Journal of epidemiology 33.12 (2023): 607-61)。

先生から研修の良かった点として、健康づくりや感染症対応などたくさんの分野を学ぶことができたこと、多職種と一緒に仕事ができることで様々な視点から業務を見ることができるようになったこと、指導医から学会発表等をできるだけ行うようにとの助言を受けて、学会発表を機会に自分の経験をまとめる習慣が付き、自分の業務について俯瞰した見方ができるようになったとなどが挙げられていました。

また研修中に直面した課題として、近くに専攻医がおらず、また専攻医プログラムにも経験すべき事例等の詳細な記載がないため、自分の研修内容が社会医学系専門医プログラムの要件を満たすか不安だったこと、博士の学位を取得するプログラムを選択したため、ちょうどCOVID-19の対応に追われた期間でもあり、業務と研究との両立に苦慮されたことなどが挙げられていました。

研修で到達したかった点としては、研修では総論的な課題として、プログラムマネジメント、組織マネジメント、プロセスマネジメントが求められるが、入職した年齢によっては経験することが難しいこと、公衆衛生行政の担い手として活躍できるようになるには、自分には欠けていたが、本人の積極性が大切とのお話をいただきました。

佐藤先生ご自身が何事にも真摯に取り組む方ですので、一般的に様々な刺激を受けて実りの多い研修期間であったようです。

今回、佐藤先生より研修修了者としての立場から貴重なお話を拝聴でき、参加者一同大変充実した時間となりました。参加者の皆様お疲れ様でした。

お忙しい中お話しいただきました佐藤陽香先生に心から感謝申し上げます。

ご報告の作成と講師を務めていただいた大原 幸所長及び司会を務めていただいた高垣正計所長ありがとうございました。また、ご報告の作成と講師を務めていただいた新家利一所長及び講師を務めていただいた佐藤陽香先生、座長を務めていただいた小谷尚克所長ありがとうございました。引き続きZENHO通信をよろしくお願いいたします。

発行責任者：宗 陽子（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）